大阪青年部だより

表千家
大阪青年部
会報　第２８号

研修茶会

令和5年2月26日　坐摩神社

令和5年2月26日、大阪市本町にある坐摩神社にて、大阪青年部研修茶会を開催しました。坐摩神社での研修茶会は5回目ですが、コロナ禍の2年間茶会を中止していたため、濃茶席のある研修茶会は3年ぶりとなりました。新型コロナウイルスは5月からいよいよ5類に移行しますが、冬の時期はまだ感染の不安があるため、各服点てでお茶を提供しました。

今回の茶会は卯年にちなみ、うさぎと桃の節句をテーマにしました。近年、注目されている大阪画壇（江戸～昭和期の大阪の絵画）の須磨対水が描いた「節句」（桃の絵）の軸と、対水の息子・須磨夏郷の「兎」の扇面を待合に掛け、お客様をお迎えしました。また、お茶席には而妙斎宗匠筆の「桃花笑春風」が掛けられました。それはまるで、待合の対水の絵を文字で表したかのようでした。「桃花春風(とうかしゅんぷう)に笑む」の言葉通り、花が毎年変わらず咲くように、研修茶会も今後は途切れることなく続いていってほしいという願いを込めました。

当日は大阪マラソンがあり、交通規制などもありましたが、大きな問題もなく各席盛会の内に終えることができました。久しぶりの濃茶、そのうえ続き薄茶のお点前ということで緊張の連続でしたが、お陰様で良い経験になりました。ご参加・ご協力を賜わりました皆様に心より御礼申し上げます。

※当日の写真と会記は『茶道雑誌』2023年5月号（河原書店）に掲載されました。

写真：上段左から
坐摩神社本殿
うさぎの大絵馬
上方落語の顕彰碑
須磨夏郷の扇

写真：中段左から
待合・床
本席の様子①
本席の様子②

写真：下段左から
梅花の透しのある好文棚
カラフルな干菓子器は
川端宏房部長の作品
本席の様子③

会記

表千家大阪青年部　研修茶会　於　坐摩神社

待合		
掛物	節句	須磨対水画
花入	乾漆錆塗　掛	川端宏房作
花	吾妻絞椿、白梅、桃	
本席		
掛物	而妙斎筆　一行　桃花春風笑	
花入	萩焼	坂倉正紘作
	黒オコシメ　敷板	五代近左作
花	馬酔木、青文字、薇	
香合	真葛焼　立雛	宮川香斎作
	紙釜敷シキテ	
釜	うさぎ釜	角谷一圭作
炉縁	真塗　早蕨蒔絵	近左作
風炉先	即中斎好　桐絵腰屏風　同書付	
棚	好文棚	
水指	呉須象嵌線文	石崎光四郎作
茶入	唐津	徳澤守俊作
仕服	本国寺金襴	
茶器	芽張柳蒔絵　大棗	五代近左作
茶碗	黒　八事窯	道年作
替	真葛焼　立雛の絵	宮川香斎作
	而妙斎筆　若松ノ絵	
出帛紗		
茶杓	即中斎北野三十本　竹　銘「柳烟」	吉羽喬兵衛作
建水	唐金エフゴ	
蓋置	葵窯　和歌山県青年部十周年記念	
菓子器	乾漆もへちゃん蒔絵　銘々皿	川端宏房作
菓子	菜の花	菊寿堂製
干菓子器	もへちゃん蒔絵　松の木溜塗青海盆	川端宏房作
干菓子	うさぎ玉	熊谷屋製
	福うさぎ	甘春堂製
御茶	豊昔	三丘園詰
	大園	三丘園詰
莨盆	尋牛斉好　香狭間透	五代近左作
火入	染付冠手	正全作
莨入	唐物写　独楽塗	吉兵衛作
煙管	而妙斎好　南鐐　筋	浄益作

花しょうぶ茶会　　令和5年6月4日　大仙公園日本庭園

令和5年6月4日、堺市大仙公園内日本庭園青苔亭にて「花しょうぶ茶会」を担当いたしました。昨年まで数年にわたり行われました枚方市山田池公園での「花しょうぶ茶会」が終了し、本年は初めての日本庭園内でのお茶会となりました。

世界文化遺産に登録されている百舌鳥古墳群の一角、仁徳天皇陵古墳に隣接する公園内とあり、多くの方が日本庭園の花菖蒲をご覧になっていました。数日前より大型台風が迫っており開催に影響がないかと気を揉んでおりましたが、早めに過ぎ去り、当日は空の青さが際立つような晴天となりました。花菖蒲も鮮やかな満開の姿で、お客様の目を楽しませてくれました。

お茶席が設けられた青苔亭は花菖蒲が咲く杜若池に隣接し、多種多様な花菖蒲が目に映ります。その中、点前座の側に一本の花菖蒲が置かれました。“長生殿”という品種で、名の由来は唐の詩人白居易の「長恨歌」で玄宗皇帝と楊貴妃が長生殿で永遠の夫婦の誓いをした場所に因んだそうです。凛とした佇まいで、お茶席が一層雅やかに彩られました。

掛物は花菖蒲に因み、京都大徳寺三玄院ご住職、大眞和尚がお書きになった“菖蒲　あやめ　杜若”の扇面を用いました。お茶碗は八ツ橋や杜若の絵、お菓子も花菖蒲の形のもので、香りが立ちこめるかのような華やかなお茶会となりました。

日本庭園にてお世話になりました皆様、お手伝いいただいた会員の方々に感謝申し上げます。

※当日の写真と会記は『茶道雑誌』2023年9月号（河原書店）に掲載されました。

写真：左から　日本庭園入口・青苔亭の外観・杜若池の様子・伸びやかに咲く「長生殿」

※令和6年は5月25日（土）に開催いたします。

写真：上段左から
野点席の様子①
大真和尚筆の扇
「爪紅」という品種の
花しょうぶ
「爪紅」の菓子

写真：下段左から
集合写真
野点席の様子②

会記

花しょうぶ茶会　於　大仙公園日本庭園　青苔亭

掛物	大真和尚筆　扇面　菖蒲あやめ杜若
釜	鉄瓶　檜目　角谷圭二郎作
風炉	宗全好　砂張火鉢
結界	木地　三友　萩井好斎作
盆	即中斎好　溜塗ロクロ目丸　近左作
茶器	山中塗　蛍蒔絵雪吹
茶碗	乾山写　八ツ橋　永楽即全作
替	真葛　杜若ノ絵　信楽　香斎作
茶杓	朱塗菖蒲蒔絵　金毛閑古材　銘阿和々　前田昌道作
建水	モール箱形　尋牛斎箱書付　浄益作
菓子	爪紅　天神餅製
茶	栄の白　山中閑春園詰

研修茶会　令和5年8月27日　小林一三記念館　人我亭

暑さが残る8月27日、阪急東宝グループと宝塚歌劇団の創業者である小林一三氏の記念館内にある茶室、人我亭にて、大阪青年部研修夏茶会を開催しました。逸翁生誕150年の節目の年に、青年部としては9年ぶり2回目の人我亭での開催となりました。当日は真夏日で、和服の青年部のメンバーは大汗をかきながらも、受付と茶席では涼しい表情でお客様をお迎えしました。

逸翁さん（小林一三）は、40歳前後で表千家の生形貴一宗匠に本格的にお茶を学び、その後、茶の湯に革命を起こしました。お道具を見立てで使用する茶人として知られています。今回のお席では、逸翁さんが実際にイタリアから持ち帰ったという西洋人物の描かれた漆絵の小振りな蓋物を香合として使用しました。本来の用途は香合ではないのかもしれませんが、箱には「香合」と記されているため、逸翁さんが香合に見立てていたことが分かります。また、逸翁さんが山梨県出身ということから、茶花には山葡萄を用いて逸翁さんを偲びました。

この茶会で最も苦労したのは、お運びの動線の確保でした。限られた茶室のスペースで薄茶2服、主菓子、干菓子を運び出すのは本当に苦労しました。最初に入室したお運びさんと2番目に入ったお運びさんが連携し、リレーのようにお茶を出し、召し上がられたお茶碗を運び出しました。これには水屋との連携が非常に重要で、色々と勉強になりました。無事に150名のお客様にお茶を楽しんでいただけて良かったです。暑い中、たくさんの方にご参加いただきまして感謝申し上げます。

※当日の写真と会記は『茶道雑誌』2023年12月号（河原書店）に掲載されました。

会記

表千家大阪青年部　研修茶会　於　小林一三記念館　人我亭

本席		
掛物	玉渓筆　虫籠	
	即中斎賛　歩々清風起　即中斎箱書付	
花入	即中斎好　南紀檜手付籠	熊玄斎作
花	山葡萄、藪茗荷	
香合	伊太利製時代金地人物絵　逸翁箱書付	
	白地金入更紗シキテ	
釜	肩衝　クレマチス	角谷圭二郎作
風炉	唐金　琉球	角谷莎村作
結界	三友	
水指	唐津　平	太郎右衛門作
茶器	彩雲蒔絵中棗	川端宏房作
茶碗	鼠志野　平　銘　水の面　尋牛斎箱書付	十右衛門作
替	陽変朝顔　平	四代諏訪蘇山作
茶杓	即中斎作　竹　銘　苔清水　筒共　同箱書付	
建水	乾漆積雲蒔絵	川端宏房作
蓋置	紫交趾　つくね	即全作
菓子器	面妙斎好　青楓流水絵　浅黄食籠　面妙斎箱書付	真葛作
菓子	桔梗	福助堂製
干菓子器	乾漆青漆台風蒔絵	川端宏房作
干菓子	氷彩	彩雲堂製
茶	大園	三丘園詰
貴盆	桑手香狭間透　桐貴盆	兵働知也作
火入	赤絵	奥田穎川作
貴入	唐物写　独楽塗	五代近左作
煙管	面妙斎好　南鐐　筋　面妙斎箱書付	浄益作

上段左：小林一三記念館の外観　　中：人我亭の外観　　右：集合写真

中段左から
本席・床
茶花
本席の様子①
香合

下段左から
本席の様子②
本席の様子③

総会　　令和5年11月3日　大阪美術倶楽部

令和5年11月3日、表千家大阪青年部令和5年度の総会を、大阪美術倶楽部をお借りして開催致しました。総会では令和4年度の事業報告、会計報告、監査報告、及び令和5年度の事業計画、予算案などが発表され、質疑応答を経て、快く了承を受けました。

また本年度において役員の追加がございましたのでご報告いたします。

新役員　　植村和功氏、北川正登氏、小谷直美氏、藤田泰彦氏

今回の総会は役員・会員を合わせて14名のご出席を頂き、総会の前後に滋賀県大津市の久保田彫刻工房より久保田唯阿先生をお招きして木彫体験講座を開催させていただきました。先生のご指導のもと、ご用意頂いた木材を掘り、色を付け、香合や干菓子盆など思い思いの作品を作りました。その後ささやかながら呈茶を行い、ゆったりとしたひと時を楽しんで頂きました。青年部会員数も年々減ってきておりますが、できるだけご満足頂けるような茶会、行事を企画し、会員同士の交流を深めていただけますよう、役員一同尽力してまいりたいと存じます。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

木彫体験講座　　令和5年11月3日　大阪美術倶楽部

令和5年秋、11月3日、大阪美術倶楽部にて、久保田唯阿先生にお越しいただき、「五節句の木彫一日教室」（木彫体験講座）を開催しました。大阪青年部総会を挟んだ午前・午後の部に分かれて、延べ16名に参加いただきました。

本体験のテーマは「木彫り香合・五節句の飾り」とし、「小槌」「琵琶」「扇」を模した香合、または「雪輪干菓子盆」を久保田先生のご指導のもと制作しました。日常生活では滅多に使用することのない彫刻刀を用いた体験のため、「彫る」、「削る」という動作に苦慮しながらも、参加者の皆様は熱心に、各々の作品を制作されていました。共箱についても参加者の皆様自らが一筆加え、銘を付けるという貴重な体験となりました。

また、今回の体験では木彫り体験のみならず、五節句や香合・香の歴史、銘について、久保田先生のユーモア溢れる表現を交えたご指導・ご説明により、茶道に関わる事物について楽しく学ぶ機会をいただけたと考えております。

写真：上段
木彫体験の様子

写真：中段
にこやかな久保田先生と
完成した作品

写真：下段
集合写真と
総会の様子

青年部入会について

みなさんのまわりに青年部へ興味をお持ちの方はいらっしゃいませんか？入会をご希望の方は大阪青年部事務局までご連絡ください。

入会資格
① 年齢が満18歳以上45歳以下
② 表千家不審菴入門者
③ 表千家教授者もしくは支部役員の推薦が受けられる方

＊高校在学の方はご遠慮いただいています。尚、表千家同門会入会の有無は問いません。
＊年会費　3,000円（行事によっては別途費用が発生する場合がございます）
＊1月から3月のお申込みは、新年度（4月）の入会となります。

大阪青年部の会員および役員を募集しております。
詳細は大阪青年部事務局までお尋ねください。

今後の活動予定

令和6年5月25日　花しょうぶ茶会（大仙公園）

創部20周年茶会について

大阪青年部は令和8年度に創部20周年を迎えます。
記念茶会の開催に向けて、少しずつ準備を進めてまいりますので、
皆様のご意見・ご協力をお待ちしております。
当日はぜひ多くの方にご参加いただけることを願っています。

◆編集後記◆

このたびの能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。令和5年度は、新型コロナウイルスの影響はほとんどなく、コロナ禍前に戻ったように活動することができました。ようやくコロナが収束し、他府県の青年部との交流もできるようになってきましたので、お互いに協力しながら青年部の活動を盛り上げていきたいです。

（大阪青年部役員一同）

大阪青年部だより 第28号
発行所　表千家大阪青年部
〒541 - 0044　大阪市中央区伏見町3 - 2 - 12　春海ビル4F
表千家同門会大阪支部内
TEL&FAX　06 - 6228 - 0248
http://osakaseinenbu-omote.net/
2024(令和6)年3月15日 発行